

**北九州芸術劇場及び響ホール
第1回芸術文化施設指定管理者検討会 会議録**

1 開催日時 令和6年 5月27日(月)11:00~12:00

2 場 所 北九州市役所本庁舎 72会議室

3 出席者 (検討会構成員) 井上構成員、井端構成員、小竹構成員、
小林構成員、和田構成員
(事務局)都市ブランド創造局総務文化部文化芸術担当課長、
施設係長、担当職員

4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
- 構成員の互選により、座長を選出
- 施設の管理運営に関する要求水準及び条件付き公募方式採用の理由等について事務局より説明。質疑応答。

(構 成 員) 自主事業における収入状況について、北九州芸術劇場(以下「芸術劇場」とする。)の第3期令和5年度の収入額が4年度までの水準より減少している要因は何か。

(事 務 局) 大きな要因は、補助金を満額とることができなかったことによる助成金等外部資金額の減少によるものである。

(構 成 員) 理由2であげられている「指定管理者業務に付随する本市の文化振興を推進する様々な取り組み(政策的事業拠点)」について、説明してほしい。また、4. 効率性の向上等(収入の増加)評価部分の「新たな会員向けサービスの提供や従来の団体営業先への丁寧なアプローチの継続」について、具体的な取り組みを教えてください。

(事 務 局) 市が定めている文化振興計画の中で、北九州市芸術文化振興財団(以下、「財団」とする。)が行うとしており、市として実施すること、財団に独自で行っていただくことの間で政策的な部分が絡み合っている。

(構 成 員) 指定管理業務だけでなく、財団も政策的なところを一部担っているということか。

(事 務 局) その通りである。

2点目の取り組み状況について、新たな会員向けサービスとして、様々なサービスを検討中だが、一例としてインターネットを利用した「かるぼー」というポータルサイトを立ち上げた。今後北九州市民を中心として会員数を増やしていきたいと考えている。

営業については、財団職員も数が限られていることから、外に出るのではなく、SNS を活用した取り組みを検討中である。

(構 成 員) 「かるぽー」について、紙ベースの広告媒体がなくなったのは残念である。長く芸術劇場を使用している利用者でインターネットをあまり利用しない方もいるため、両方あるのが望ましい。

(構 成 員) 昨年度は国際音楽祭も開催されたが、年配の方が多く参加されている。今後はより多くの子どもたちが音楽や芸術に触れ、北九州市が芸術文化にあふれる街だと感じてもらいたい。その中で、財団は子どもたちが芸術に触れる機会を多く計画してくれている。

また、専門的なスタッフがたくさん在籍しており、使用する団体は気持ちよく施設を利用することができる。

稼働率についても、交通アクセスが良いとは言えないにも関わらず、高い水準を維持している。利用者アンケートの満足度も 95%以上を維持しており、悪い点は見当たらない。

(構 成 員) 地元の芸術家を育てるコンセプトは素晴らしく、北九州の財産であると思っており、変えてもらいたくないと感じている。

(構 成 員) 昨年度芸術劇場は開館20周年を迎え、イベントを実施したが、今後は5年置きくらいにイベントを実施して更なる周知に努めてもよいと考えている。いまだに芸術劇場がどこにあるか分からない、といった声をきくこともある。

(構 成 員) 特に芸術劇場は商業施設の中にあり、吹奏楽等で続けて使用するには、入れ替わり等の課題もあり難しいため、もったいないホールだと感じている。しかし、一個人が使用するには素晴らしく、スタッフも課題を乗り越え工夫して対応されている。

(構 成 員) 利用者に満足してもらうために、スタッフの育成等が重要となるが、短い期間で指定管理者が変更すれば、ノウハウの蓄積が難しくなる。条件付き公募で実施すると財団側も専門知識を持つスタッフを雇うことが可能になる。芸術劇場は、オリジナルの演劇も作っているが、地元の劇団や音楽家を支援していただくためにも、地元に着したスタッフを育てていかなければいけない。現在は、財団が運営することでうまくいっていると感じている。

(構 成 員) 利用者の視点から意見を言えば、とにかくスタッフが変わらず素晴らしい。良いところはもちろん、悪いところも丁寧に伝えてくれる。安心して利用することができる。

(構 成 員) 先ほど意見にあがった未来の観客を育てる視点はやはり重要である。響ホールは乳幼児へのイベントを定期的で開催しており、芸術劇場は乳幼児や子ども向けの海外作品を年に1, 2回程度企画している。貸館だけでなく、自主事業も力を入れていることが、満足度に反映していると考えられる。

(構 成 員) 予算決算の視点で見れば、やはり先ほどの自主事業の収入について、令和5年度に減少している要因となっている助成金等外部資金額の収入減以外であるチケット収入についても過去からの水準よりも数字が取りづらくなっている点が気がりである。

(事 務 局) 令和5年度は、芸術劇場が開館20周年を迎えた節目の年であり、公的な位置づけのイベントが多く行われたため、自主事業による大規模な演劇等が減り、チケット収入の額も減少した。今年度は NODA・MAP 等のイベントが企画されており、チケット収入は目標値の同水準程度になる見込みである。

(構 成 員) 響ホールよりも席数の多い芸術劇場の方がやはり新型コロナウイルス感染症の影響を受けているのか。

(事 務 局) 芸術劇場の方が影響を受けているとは伺っている。また、令和5年度は、響ホールで国際音楽祭を実施しており、人気がある内容を多数プログラムに組み込むことができたため、チケット収入があがっている。コロナ渦以前の第2期の水準までもどすことは時間がかかると伺っている。

- 構成員は質疑応答を受けて各自条件付き公募方式採用の妥当性の有無を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換。

(構 成 員) 両施設とも、指定管理者は市の文化施策と結びつき、役割の一旦を担っている。また、劇場や音楽ホールは長期的な視点で専門人材を育てたり、ノウハウの蓄積が必要である。さらに地元の文化団体との信頼関係の構築も必要となる。財団は指定管理者として十分な実績があり、次期指定管理者を公募で選定した場合、サービス低下の可能性もあることから条件付き公募の妥当性はあると考える。

(構 成 員) 現在のスタッフ・運営に非常に満足している。今後は財団がこのまま指定管理者を継続し、定期的な PR イベントを増やして、更なる周知に努めていただきたい。

(構 成 員) 両施設ともにコンセプトや事業展開が充実したものとなっている。質の高い講演が行われており、次世代を担う世代に重点を置いた企画や運営は素晴らしい。稼働率、収入も問題ないと考えており、利用者アンケートも評価できるものである。マイナスの項目が見当たらないため、財団が指定管理者を継続し、今後の事業についても期待したい。

(構 成 員) 稼働率や利用者満足度が高評価であることから、財団は、両施設とも単なる貸館事業としての事業のみならず、後進の育成や市の文化施策に対する役割を果たすための、従来からのノウハウが蓄積されていると考えられる。そのため、条件付公募により、設置目的に適う事業者の選定を行うことが望ましく、妥当性はあると考える。

(構 成 員) 両施設ともソフト面・ハード面が一体化した運営や長期的な視点が求め

られることから、条件付き公募の妥当性はあると考える。財団に対する利用者アンケートの結果をみても安心して任せられると思う。

北九州市に文化拠点があることは、市民の誇りにつながるものであり、文化が市民に根付くための貸館事業だけでなく文化事業を今後も継続してほしい。

- 検討会の意見を受け、条件付き公募方式採用の妥当性の判断について、当検討会としては、条件付き公募方式採用の妥当性が「有」という結論となった。

(事務局) 条件付き公募方式採用の妥当性が「有」との結論を受け、検討会を終了する。